

名称 高陽町商工会(広島県)		会員数	1,148者		調査票A	
経営発達支援事業に従事した役職員数 11名 うち、経営指導員数 4名						
経営指導員のうち、単会役職員数(委任契約・無期雇用契約で働く者) 名						
経営指導員のうち、連合会等役職員数(委任契約・無期雇用契約で働く者) 名						
経営指導員のうち、非常勤役職員(有期雇用契約、顧問契約、業務委託契約等で働く者) 名						
A:達成度100%以上 B:達成度80%以上100%未満 C:達成度30%以上80%未満 D:達成度30%未満 E:事業に取り組まず						
項目等		実施状況等		計画中の目標値		
1. 地域の経済動向調査に関すること		令和6年度年間評価		B		
① 地域経済動向調査の実施方法(以下のA～Dから選択)		令和6年度年間調査		D		
自治体等の公的機関調査の活用 → A						
民間調査の活用 → B						
自己資金による外部委託調査 → C						
その他 → D						
2. 経営状況の分析に関すること		令和6年度年間評価		B		
② 経営状況分析事業者数		令和6年度年間実績		18者 20者		
※経営状況分析を実施した小規模事業者数		法人:11 個人:7				
3. 事業計画策定支援に関すること		令和6年度年間評価		B		
③-1 事業計画策定事業者数		令和6年度年間実績		18者 20者		
※事業計画を策定した小規模事業者数		法人:11 個人:7				
③-2 うち、補助金又は計画申請に係る事業計画策定事業者数		令和6年度年間実績		補助金申請 6者 計画申請 18者		
※補助金(持続化、ものづくり、自治体独自の補助金等)申請に絡んで事業計画を策定した小規模事業者数を上段、計画申請(経営力向上計画、経営革新計画、自治体独自の計画認定制度等)に係るものは下段に入力		※令和7年3月までの実績				
		〔補助金〕				
		法人		個人		
		持続化補		1 1		
		ものづくり補				
		IT導入補				
		事業再構築補				
		事業承継補				
		県補助金		1		
		広島市中山間補助金		3		
				4 2		
				6件		
		〔計画申請等〕				
		法人		個人		
		ローカルベンチマーク活用		10 6		
		経営力向上				
		経営革新				
		事業承継		1		
		創業				
		働き方改革				
		先端設備				
		事業継続力		1		
		県各種計画				
		市各種計画				
				11 7		
				18件		
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること		令和6年度年間評価		A		
④-1 フォローアップ実施事業者数		令和6年度年間実績		25者 20者		
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者数(延べ回数ではなく、計画策定後の実施支援を行った事業者数)		※前年度以前に事業計画を策定した事業者も含む。				
④-2 うち、売上高増加事業者数		令和6年度実績		(増加) 10者 (減少) 12者 (横ばい) 2者 (不明) 1者		
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者の売上高の変化(「横ばい」は増減1%以内、「不明」は把握していない場合)						
④-3 うち、粗利増加事業者数		令和6年度実績		(増加) 11者 (減少) 11者 (横ばい) 2者 (不明) 1者		
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者の粗利の変化(「横ばい」は増減1%以内、「不明」は把握していない場合)						
フォローアップ延べ回数		令和6年度年間実績		92回 80回		
※事業計画策定後のフォローアップを実施した延べ回数						
フォローアップ訪問頻度の事業者毎の差別化		令和6年度年間実績		有		
※フォロー頻度について事業者の状況に応じて頻度の差別化してるか。						
<全国連調査> IT活用の支援事業者数(延べ)		令和6年度年間実績		55者		
※経理・会計等の電子化やホームページ作成、ECサイト利用による販路拡大などITを活用した支援を実施した小規模事業者数						
DX支援事業者数		令和6年度年間実績		5者		

5. 需要動向調査に関すること		令和6年度年間評価	C	
需要動向調査実施事業者数		令和6年度年間実績	2者	5者
※需要動向調査・分析を実施した小規模事業者数				
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること		令和6年度年間評価	C	
⑥-1 展示会・商談会の出展又は開催件数		令和6年度年間実績	1件	件
※展示会・商談会又はそれに類するものへの出展又は開催した件数 (出展・開催の件数)				
⑥-2 うち、展示会(BtoB)又は展示会(BtoC)実施件数		展示会(BtoB)兼商談会	件	
		展示会(BtoC)兼即売会	1件	
※⑦-1のうち、展示会・商談会の形態(BtoB又はBtoC)ごとに入力 (出展・開催の件数)				
7. 地域経済の活性化に資する取組		令和6年度年間評価	B	
⑦-1 地域経済活性化に関する関係機関との協議実施件数		令和6年度年間実績	7件	件
※地域経済活性化に関して、地域の関係機関との協議を実施した件数				
⑦-2 ⑦-1を踏まえて実施した地域経済活性化に資する取組内容を記載してください。				
※地域の関係機関との協議の結果、実施した取組について内容を簡潔に記してください。 (例)「市と協議を重ね、新たな補助金を創設した」「観光協会と協議を重ね、7月に3日間、町おこしイベントを開催した」など。				
・⑦-1の内訳 5/13(総務生活環境部会①)、6/3(総会)、10/24(総務生活環境部会②)、2/25(勉強会) 安佐北区コミュニティ交流協議会に参加し、管内の各種団体と連携・協議し、安心・安全・住みよい街づくりを目指して活動した。 7/27 「高陽地域・白木地域活性化プラン作成検討ワークショップ」に参加し、事業者側からの意見を延べ、地域の目指すべき姿について関係機関と情報を共有した。【新規】 6/17、10/9(欠席)、1/24 広島県立広島特別支援学校 学校運営協議会に参加し、学校の運営や必要な支援に関して協議した。				
■ その他地域活性化事業 ・夏季講演会 7月19日(金) 高陽町商工会 63名 「人工知能時代をどう生きるのか」経済評論家・日本科学技術ジャーナリスト会議会長 室山哲也氏 ・第4回高陽・白木こどもフェスタ 11月3日(日・祝) フジグラン高陽 ふれあい広場 約3,500名 地元企業や公共機関20団体ほか、地元金融機関や学校からのボランティア 仕事体験を通して、地元企業と子どもたちの交流を図った。 ・令和7年新春講演会&新年互礼会 1月17日(金) シェラトングランドホテル広島 93名 「古今亭菊丸独演会」落語家 古今亭菊丸氏 ・「ザ・ビジネスモール」に参加 参加事業者数:23事業所(3店舗増) ・「BUYこうよう・しらき」発刊(令和7年1月) 発行部数:2,000部				
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること		令和6年度年間評価	A	
9. 経営指導員等の支援能力の向上の仕組み		令和6年度年間評価	A	
10. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制		令和6年度年間評価	A	
11. 施策利用状況等(その他取組状況)				
経営力向上計画策定支援件数(うち、認定件数)		令和6年度年間実績	(支援) (認定)	
※経営力強化法に基づく経営力向上計画の策定を支援した件数を上段、認定を受けた件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
経営革新計画策定支援件数(うち、認定件数)		令和6年度年間実績	(支援) (認定)	
※経営力強化法に基づく経営革新計画の策定を支援した件数を上段、認定を受けた件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
先端設備導入計画策定支援件数(うち、認定件数)		令和6年度年間実績	(支援) (認定)	2件 2件
※先端設備導入計画の策定を支援した件数を上段、認定を受けた件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
事業継続力強化計画策定支援件数(うち、認定件数)		令和6年度年間実績	(支援) (認定)	3件 2件
※先端設備導入計画の策定を支援した件数を上段、認定を受けた件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
持続化補助金申請件数(うち、採択件数)		令和6年度年間実績	(申請) (採択)	2件 2件
※持続化補助金を申請した件数を上段、採択件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
都道府県・市町村が実施する支援施策活用支援件数		令和6年度年間実績	(都道府県) (市町村)	1件 3件
※都道府県が実施する小規模事業者支援施策(補助金、計画策定等)の活用を支援した件数を上段、市町村が実施する小規模事業者支援施策(補助金、計画策定等)の活用を支援した件数を下段に入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む)		
経営改善資金(マル経)推薦件数		令和6年度年間実績		76件
※経営改善資金(マル経)を推薦した件数を入力		※令和7年3月までの実績(継続支援先以外も含む) 前年度実績82件		

12. 令和6年度の総括と令和7年度に向けた経営発達支援事業の改善点

「第3期経営発達支援事業」として2年目となる令和6年度は、広い業種において原材料費等の様々なコスト増加分に対する価格転嫁が進まず収益性が悪化するなど、景況感は厳しい状況が続いた。加えて、深刻な人材不足、後継者不在による廃業の危機、金利上昇の影響等の不安要素も多く、先行きに対する不透明感も強い1年であった。

そうした状況を受けて当会では「第3期経営発達支援事業」から、より支援成果を上げる為、支援対象事業者を原則3年間の支援を行う「継続支援先」として絞り込み、目標数値の見直しも行われた。

事業計画策定事業者数においては、補助金や認定申請、マル経融資等をきっかけとし、目標値20者に対し、18者の実績となった。また計画策定後のフォローアップについては、25者（前年度策定事業者含む）に対し、92回のフォローアップを行った。（1者当たりのフォローアップについては、3.6回）事業計画策定事業者が目標値を下回った要因としては、策定のきっかけとなっていた持続化補助金が令和6年5月下旬をもって制度見直しの為、一旦公募が終了となり、活用しやすい補助金制度が無くなった事が上げられる。従来より、補助金や融資ありきの事業計画策定となる傾向がある為、本来の事業計画策定の重要性を周知しながら策定事業者の掘り起しに取り組む必要がある。

また、今年度3年目の取組みとなった「DX化支援」は、集合研修では個社の問題解決には繋がりにくいとのこれまでの反省から「専門家派遣形式」に切り替えた。事業者からは、1対1できめ細やかな支援を受けることが出来て、大変効果的であったとの声をいただいた。

ほか、「特産品の開発および販路拡大事業」では前年に引き続き「白木産小豆」を取り上げ、セミナーを開催した。セミナー当日は、小豆の生産者や飲食業者、食品製造業者、県の関係機関に加え、地元紙やメディア関係者も参加し大いに盛り上がった。当地区における小豆の歴史を知ったうえで、実際に調理し、食してみることでより深く小豆について知ることが出来た。特に、安田女子大や高陽高校を巻き込むことで、若い世代の小豆に対する意識やアイデアを取り込めたことは大きな成果であった。セミナー終了後も各メディアで大きく取り扱われたことで、白木産小豆の認知度は一層上がり、反響は広がっている。次の展開としては、小豆関連の新商品を開発する一方で、販路の開拓も進める必要がある。

その他、地域話題として落合5丁目（旧パチンコ店跡地）に「ダイレックス高陽店」が出店することとなった。（出店予定日：令和7年11月20日）ダイレックスは、ディスカウント・ドラッグ・生鮮食品の融合店舗を全国に展開するチェーンで、「食料品が安くて美味しい」と評判である。中でも精肉は評価が高い。この出店によりフジグラン高陽やマックスバリュ、キヌヤ等の近隣大型店舗への影響はかなり大きいものと思われる。加えて、付近の交通渋滞も懸念され、近隣住民の住環境への影響も心配される。

引き続き、共同申請者である広島市や外部支援機関との連携を強化して国が求める「傾聴と対話」により事業者の「自走化」を促す「経営力再構築伴走支援」によって地域事業者の支援に取り組みたい。

13. 他の商工会・商工会議所にも実施を勧めたい特徴的な取組

＜求人広告事業＞ ※商業部会の発案により、「提案公募事業予算」にて実施

高陽町商工会管内約15,000世帯へ会員事業者の求人広告新聞折込みを実施。地元で働く機会を創出することにより通勤時間の短縮・交通費の削減・地域内消費を拡大させる事を目的とする。商工会会員にとっても安価で求人募集が出来、大きなメリットがある。

＜過去実績＞

第1回（令和5年3月実施）	掲載事業者 9社	応募のあった事業者9件、うち2名採用
第2回（令和5年8月実施）	掲載事業者 14社	応募のあった事業者8件、うち3名採用
第3回（令和6年2月実施）	掲載事業者 13社	応募のあった事業者2件、うち1名採用
第4回（令和6年5月実施）	掲載事業者 17社	応募のあった事業者1件、うち0名採用
第5回（令和6年9月実施）	掲載事業者 19社	応募のあった事業者9件、うち1名採用
第6回（令和7年1月実施）	掲載事業者 16社	応募のあった事業者0件

14. 管内景況調査について

会員事業者に対し行った令和6年度景況調査（回答数38者）では、前年同期との比較で「景況感」について「かなり悪化」と回答した事業者が全体の約15.7%、「やや悪化」の約31.5%と合わせ約47.2%が景気の低迷を感じ、将来の動向に対して不安を持っている。

また、「仕入単価」については、昨年に引き続き原材料価格の高騰を反映し、約76.3%の事業者が「かなり上昇」「やや上昇」と回答している。それを受けて、「利益率」についても、約50%の事業者が「かなり減少」「やや減少」と回答し、各業界とも利益の確保が難しい現状が続いている。

また、業種別での傾向については、建設業およびサービス業において人材の確保が難しいとの回答が多く、製造業では、実に約91.6%が仕入単価の高騰を感じているとの結果になった。

今回の景況調査は、従来のFAXでの返信に加え、QRコードを使ったオンラインでの回答も可能とした。